

2017年度しあわせ研究

生活課題を抱える人の課題緩和・解決に
貢献するグローバル人材育成
プログラムの構築
研究員 木下大生



本研究は、ソーシャルワークの価値と倫理に基づいたソーシャルワークをグローバルに展開するための知識・技術を身につけた人材（以下、グローバル人材）を育成するプログラムを構築することを目的とする。

日本におけるソーシャルワーカー養成教育は、1987年の「社会福祉士及び介護福祉士法」の制定を嚆矢に、社会福祉士養成を目的として本格化した。社会福祉士養成科目群には、グローバル人材の育成に関連した科目が包含されていない。

しかし、近年の世界的なグローバル化の進行により、グローバル人材の要請が高まってきているといえる。そこで本研究は目的を、グローバルに活躍できるソーシャルワーカーの育成プログラムの構築することとし、2018年度より開講予定の「多文化共生ソーシャルワーク論」を軸に、海外におけるインターンを含むプログラム構築を目指した。

2017年度は、海外におけるソーシャルワークインターンプログラムの構築を目指した。方法は、カンボジア、インド等の人身売買抑止活動に取り組み認定NPO法人か

ものはしプロジェクト（以下、法人）のカンボジア支部をインターン先に選定し、担当スタッフの方とWeb会議を通してインターンの内容を6回に亘って検討した。

また、2月19日～22日にかけてかものはしプロジェクトカンボジア支部を、訪問した。先方の担当者、現地スタッフと共にミーディングを重ね、インターンの内容を検討した。また、インターンプログラムの内容の候補として上がったことを、訪問教員3人で体験し、さらに内容の検討を重ねた。その手続きを通して、5日間のインターンプログラムの内容が概ね完成した。

プログラムは、1、2日目はプログラムの概要のオリエンテーション及び現地スタッフと学生のチームの波長合わせ、3、4日の2日間に亘りチームで地域課題の発見と解決方法の検討、5日目に成果発表、という内容である。

本プログラムを通して、異文化の地において、学生の地域課題の発見・解決力の涵養が期待できると同時に、法人のカンボジアスタッフがソーシャルワークの価値・倫理、及び課題解決のプロセスを学んでいただく、双方向の学びの機会になることも期待できると考えている。

2018年度は、プログラムの完成に向けてパイロットスタディを行う予定である。